

企業情報

ホーチキ株式会社

所在地 / 本社：東京都品川区上大崎 2-10-43
宮城工場：角田市江尻字前原 141-1
TEL 0224-68-2411
https://www.hochiki.co.jp/



代表取締役社長執行役員 / 山形 明夫

資本金 / 37億 9,800万円

設立 / 1918年4月

従業員数 / 245人 (宮城工場：2020年2月現在)

事業内容 / 火災報知設備・消火設備・情報通信設備・防犯設備等の製造販売および施工ならびに保守管理

経営理念 / 「人々に安全を」「社会に価値を」「企業をとりまく人々に幸福を」

佐藤さんは、ホームページから同社が製品の設計から製作、販売、メンテナンスまで幅広い業務を行っていること、火災報知機のほかにも多種多様な製品を扱っていることを知った。「ここで働くことができれば、高校で学んだ電子分野の知識を生かせ

慣れないラインオペレーターの仕事 頼れる先輩のフォローで克服

佐藤さんは、白石工業高等学校の電気科出身。「小学生の頃からゲームで遊ぶことが好きで、しだいにゲーム機や電子機器の仕組みに興味を持つようになりました」卒業したらゲームメーカーや電子機器メーカーに就職しようかな。そう漠然と考えていた高校3年生のある日、学校で求人票を見ていると「ホーチキ」の名前に目が留まった。「火災報知機を作る工場が地元にあることに驚き、もっと調べてみようと思いました」

世界の総合防災メーカー ホーチキ株式会社

ホーチキ株式会社は、1918年に日本初の防災メーカーとして創立して以来、一世紀以上にわたり日本の火災防災をリードしてきました。製品の研究・開発、製造、販売、施工、メンテナンスまでを一貫して行い、その品質は国内外から高い評価と信頼を獲得。現在、事業エリアは129の国と地域に広がっています。

宮城事業所（角田市）は、1969年に火災感知器の生産を開始しました。現在は、「研究・開発・製造」を担う「宮城工場」（写真中央）と研究・開発を行う「総合防災実験場」（写真右上）に分かれています。



宮城工場

感知器やセキュリティ機器を生産し、製品は海外にも輸出されています。2016年には、増産に伴い新たに「第二工場」を建設しました。

宮城工場は、ホーチキグループにおいて、海外工場を建設する際のモデルとなる「マザー工場」であり、さらなる効率化と高品質化が進められています。



差動式スポット感知器。急激な温度上昇時に、「火災」と判断する熱感知器で、宮城工場の主力製品のひとつ

総合防災実験場

幅 25メートル、高さ 26メートル、奥行き 120メートルにもおよび、世界最大級の屋内防災実験施設です。

約 100メートル遠方の火災でも消火が可能な「放水銃」と呼ばれる設備の開発・試験をはじめ、様々な製品の研究・開発が行われています。



放水銃の性能テストの様子。放水銃は、ドーム型スタジアムや空港・体育館などの大型の建物に設置されています

厳しい目で生産ラインの停止につながるトラブルを未然に防ぎ、停止してしまっただけには短時間の復旧を目指し全力で挑む。「ラインオペレーターのみなさんが、安全に安心してものづくりができるように支える仕事です」と胸を張る。

新設系のメンバーに抜擢 責任と誇りを胸にチャレンジ

同社は、1920年に日本初となる火災報知機を開発・設置した防災メーカーである。創立から100年にわたり防災分野で培ってきた技術とノウハウをもとに、セキュリティや情報通信にも事業分野を拡大。現在は、大規模建築物において国内トップシェアを誇る火災防災とセキュリティの総

合メーカーとして、私たちの暮らしや産業の安心安全を守っている。

同社の国内生産拠点の一つである宮城工場では、今年度から製造技術係が設置された。入社3年目ながら新しい係の初代メンバーに選ばれた佐藤さん。「生産設備の安全を守る重大な仕事を任せられ、とてもプレッシャーを感じています。新しく覚えることばかりですが、一つずつ自分のものにして、ここで働くみなさんの力になりたいですね」と目を輝かせた。

佐藤さんは、白石工業高等学校の電気科出身。「小学生の頃からゲームで遊ぶことが好きで、しだいにゲーム機や電子機器の仕組みに興味を持つようになりました」卒業したらゲームメーカーや電子機器メーカーに就職しようかな。そう漠然と考えていた高校3年生のある日、学校で求人票を見ていると「ホーチキ」の名前に目が留まった。「火災報知機を作る工場が地元にあることに驚き、もっと調べてみようと思いました」



丁寧かつ正確な仕事で
ものづくりの現場を支えたい

熱感知器の自動生産ラインに取り付けられたセンサーの調整を行う佐藤潤一さん

仕事 鑑 CASE 01

100年以上の歴史と伝統 日本の防災システム業界をリードする

製造技術

佐藤 潤一さん (21歳)

ホーチキ株式会社 宮城工場 (角田市)

保守点検とトラブル対応で
生産設備の安全操業を支える

ホーチキ株式会社宮城工場の自動生産ライン上に、直径十センチの円盤状の製品がずらりと並んでいる。「差動式スポット感知器」と呼ばれる熱感知器の一種で、商業施設や集合住宅、公共施設などの天井で見つけることができるはずだ。

佐藤潤一さんは、ドライバーを使ってライン設備に取り付けられているセンサーの調整を行っていた。「このセンサーは、製品の流れを感知するもので、何らかの原因でラインが止まってしまうと反応します」と教えてくれた。

1年前まで佐藤さんがラインオペレーターを担当していたこともあり、「微妙なクセまで熟知している思い入れのある設備です。だから、チェックには自然と力が入ってしまいますね」と笑顔だ。

工場のあらゆる生産設備の保守点検とトラブル対応などを担う、製造技術係に所属する佐藤さん。製品の不良や設備の故障などを未然に防ぐために取り付けられている様々な検査機器やセンサーを担当する。業務内容は幅広いが、全てにおいて丁寧で正確な仕事を心掛けているという。

「トラブルの原因を調べる際に、検査機器の内部にある電子基板や配線を取り外すことがあります。その際に注意を怠り、配線や基板を損傷させてしまうと、新たなトラブルを引き起こしてしまいます」



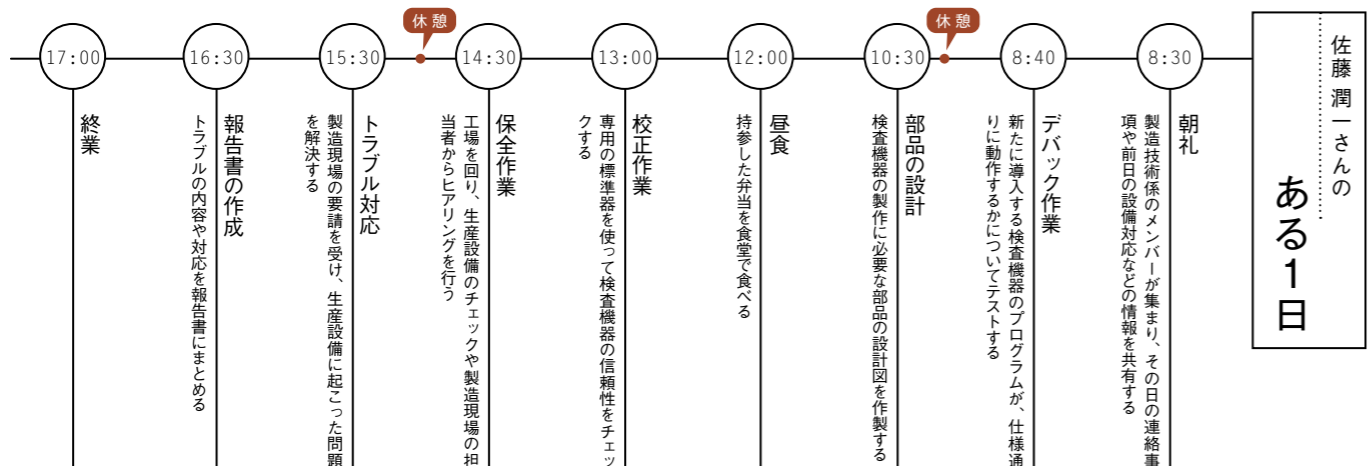
プログラムを検証し、不具合や欠陥を修正するデバック作業も大切な仕事の一つ



検査機器の内部にある配線や電子基板にキズなどがないか確認する



検査機器の点検作業。プログラムを解析して、正常に動いているかを確認する



生産設備について気になる点をラインオペレーターからヒアリングする



測定器の信頼性を確認する校正作業。基準器との誤差が大きい場合は、専門業者に調整を依頼する



生産設備のトラブル対応は、基本的に2人体制で行う。意見を出し合い早期復旧を目指す

未来のACEへ
先輩からのアドバイス

就職先を選ぶ時には、求人票の情報だけでは不十分です。インターンシップや工場見学、企業説明会などに積極的に参加して、会社の関係者から生の声を聞くことが大切だと思っています。そして、仕事のイメージをしっかりとつかんで下さい。

就職してしばらくの間は、何も分からず不安を感じることも多いはず。そんな時に頼りになるのが、同期入社仲間や教育係の先輩といった気軽に相談できる人たちです。だから、普段から積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をしましょう。

会社の研修制度や教育カリキュラムについて知っておくことも大切。仕事を覚える流れや、自分の将来像がはっきり分かりますので安心です。就職先選びに必要な情報の一つだと思います。

上司に聞く

製造課 製造技術係 係長 遠藤 勝弘さん

仕事に向き合う姿勢と事前準備が素晴らしい 不測の事態への対応力を磨きさらなる成長を

真面目で素直な佐藤君。まだ彼がラインオペレーターを担当していた頃、トラブル対応のため駆け付けた私にハキハキと状況を説明する姿が印象的で、「将来有望な新人だな」と感じていました。

工業高校の電気科で学んでいたところを見込んで、今は検査機器を任せています。工場にはたくさん検査機器があるので、製造現場のみならず信頼されるヒーローになってくれると期待しています。

準備や段取りの能力が素晴らしい、会議の資料は完璧。ただし、事前に備えていても、現場では想定外のこと起こります。これからは、「納期が近く時間がない」などシビアな状況下で決断しなくてはならないケースが増えてくると思うので、モチベーションを維持して頑張ってください。これからも係全体でフォローして、成長と活躍を応援しています。

地道な情報収集と解析で結果を残すさらなる高みを目指し学び続ける

3年目から新たな環境で働くことになった佐藤さんは、ラインオペレーターの意見や悩みを把握するため、時間があれば製造現場を訪れた。さらに、検査機器の構造やメカニズムについて学ぶため、機器の開発担当部門に足しげく通った。

「検査機器のことなら何でも分かるエキスパートに早くなりたい」と思っています。そのために、いろいろな人の話を聞いて学んでいます」

佐藤さんは、ある生産ラインについて、検査機器などから集めたデータから様々なトラブルのパターンを解析し、その原因と改善方法について検証を重ねた。その結果、トラブルの発生を抑え、生産性の改善につなげることができたという。「3、4カ月もの間、試行錯誤して苦労しただけに、達成感がありました。何より自分の力で結果を出せたことがうれしかったですね」とこやかに話した。

こうして佐藤さんは、毎日、宮城工場の安心安全を守っている。そして、ここで生まれた製品が、世界中の安心安全を守っている。だからこそ、今の仕事がとても誇らしいという。

「これからも一つずつ知識を増やして、生産設備のことなら何でも分かるプロフェッショナルを目指します！」と語る佐藤さんの飽くなき挑戦は始まったばかりだ。

CASE 01

仕事 図鑑

100年以上の歴史と伝統
日本の防災システム業界をリードする

製造技術
佐藤潤一さん (21歳)
ホーチキ株式会社 宮城工場 (角田市)

火災を通報するための発信機は、小学生の頃、一度は「ボタンを押してみたい!」と思ったことがあるだろう。この製品も宮城工場で作られている

幅広いニーズに総合力で応える 株式会社ネクストで働く人々

設計から完成まで一貫生産体制を整える当社では、各工程のプロフェッショナルが力を合わせ、高性能・高品質のものづくりを支えています。

- 1 板金工程では、金属板を切り出しや穴あけ加工を行った後、「ベンダー」と呼ばれる加工機を使って曲げ加工を施します
- 2 塗装工程では、組み立てた製品に塗装を施します。当社では、2019年から東北最大級の塗装設備が稼働しています
- 3 検査工程では、製品を取引先に収める前の最終チェックが行われます。パーツごとに分けて納める大型の製品も、完成形まで組み立てて検査を行います



液晶パネル製造に欠かせない液晶露光装置
テレビやスマートフォンなどに使われる
を格納する外装や関連するパーツなどを製造している。

高度な精密板金技術と総合力を生かし 最先端のものづくり分野にも貢献

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

「この後の『ならし』が難しいんです」と話す阿部さん。ならばとは、溶接した時の熱の影響で生じた金属のひずみを修正する作業で、変形した部分を叩いて元の形に戻していく。叩く場所や強さが仕上がりに影響を及ぼしてしまうため、溶接工の経験とセンスが問われる作業だ。

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

企業情報

株式会社ネクスト

所在地 〓 栗原市築館字城生野入ノ沢 23
TEL 0228-23-8101
http://www.kk-next.com/

代表取締役 〓 田中 真一郎

資本金 〓 1,000 万円

設立 〓 1997 年 10 月

従業員数 〓 114 人 (2020 年 2 月現在)

事業内容 〓 精密板金、キャビネット製造、板金筐体塗装
経営理念 〓 「こんなことできたらいいな」という夢を、卓越した「匠の技」と自社開発した「ニュー・テクノロジー」とのネットワーク化と融合化をはかり、実現しよう。

苦勞、悩みを共有でき一緒に喜び合える会社、創意と勇気をもって未知の世界へ挑戦するチャレンジングな企業風土を築こう。

事業成功によって得られた幸福をみんなで分かち合おう。



仕事 図鑑

CASE 02

願いをカタチに変える 卓越した匠の技を次の時代へ

溶接工

阿部 直希さん (21 歳)

株式会社ネクスト (栗原市)

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

「この後先輩が組み立て完成させる。そのため、きちんとひずみを修正しておかないと、きれいに組み立てることができなくなってしまうという。」「昨日、修正が不十分なので、半導体集積回路を製造する半導体製造装置といった最先端の生産機器も手掛ける。一枚の金属板を切断し、穴あけや曲げ、溶接加工を高精度に仕上げる精密板金技術と、設計から板金加工、塗装、検査まで手掛ける総合力が強みだ。」

熟練の溶接技が光るプロ集団で 工程の先陣を担う若手溶接工



先輩に最高のバトンを渡すため
丁寧な作業を肝に銘じる

溶接した部分に定規を当てて、金属のひずみが見られないか確認する阿部直希さん



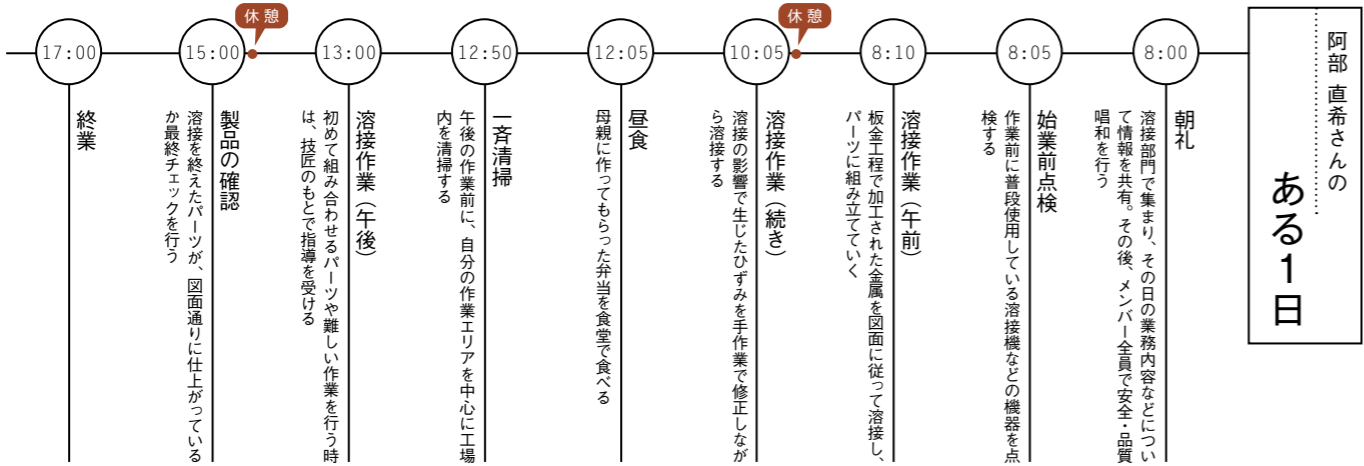
佐藤一技匠の指導に耳を傾ける。常に優しく時に厳しい技匠は憧れの存在である



抵抗スポット溶接。材料を加圧した状態で数千〜数万アンペアの大電流を流して溶接する



電気溶接の一種TIG溶接。火花が飛び散らず音が静かなため、よく使われる溶接技法である



溶接のテクニックが図解と共にびっしりと書き込まれているノート。作業中はいつもそばに置いてある



毎朝行う安全・品質唱和で、気持ちを仕事モードに切り替える



上司から技術面や製品・道具の取り扱いなど作業改善についてアドバイスを受ける

未来のACEへ
先輩からのアドバイス

就職先を選ぶ時には、「面白い仕事だな」と興味を持てるかどうかを大切にしてください。その際には、過去の知識や経験からだけではなく、自分で調べたり人に聞いたりとできることは何でも試してみよう。集めた情報は、リスト化すると分かりやすいと思います。

そして、資格は可能な範囲で持つておくことをおすすめします。高校生の時はあまり資格取得に積極的ではなく、就職してから資格の大切さを実感しました。

もちろん、資格がないから就職ができないということはありません。ただ、資格取得のために勉強することで、仕事のイメージをつかむことができるのでその職業に興味を持ったり新たな発見があったりするはずですよ。

上司に聞く

板金部
部長
氏家 伸さん

**仕事と真面目に向き合う姿勢が素晴らしい
今後の経験を生かし、さらなる成長に期待**

寡黙な努力家タイプの阿部君は、入社3年目としては、高い技術と知識を身に付けていると評価しています。先輩からの技術指導に対してしっかりと耳を傾け、もらさずノートに記録する。「頭と体で技術を覚えることができる、将来有望な若手が入社したな」とうれしく思っています。

現在は、比較的加工しやすい鉄やステンレスを材料に、製品の一部分を溶接する仕事を任せています。これからは、先輩のように大きく立体的に組み立てる作業もマスターしてほしいですね。難しいアルミニウムの溶接にもチャレンジすることになるでしょう。

次のステップを目指して、佐藤技匠や先輩の技術をさらに吸収してください。先輩もできたので、自分の技術を人に教える経験も積んで、ますます成長してくれると期待しています。

「気がしなくてもいいから。次を頑張ろう」。先輩たちの優しい励ましの声で前を向いた阿部さんは、一つ一つの作業に集中し、丁寧な仕事を心掛けた。教えてもらったノウハウをまとめたノートに繰り返し目を通し、溶接のイメージを頭に叩き込んだ。

「1年目は、がむしやらでした。2年目からは慣れてきてミスも減りました」

社内の溶接技能認定試験に合格し、東北職業能力開発大学校（栗原市）で実施された技術講習会にも参加するなど、阿部さんは、ますます腕に磨きをかけている。尊敬する佐藤技匠から「きれいに仕上がったな」とほめてもらえる瞬間が何よりもうれしく、やりがいにつながっているという。

「ものを作って形に残したい」と飛び込んだ溶接の道。阿部さんは、3年間で100種類以上の製品を形にできた。しかし、身に付けなければならない技術、やってみたい仕事はまだたくさんある。

阿部さんは、「これからも着実に溶接をして、次の工程で待つ先輩たちに製品を届けていきたいです」と抱負を語ると、道具を手に取り作業を再開した。溶接によって放たれた光が、手元を静かに照らし始めた。

「ここがACEポイント！」

多様な技法やテクニックを駆使して材料をつなぎ合わせる溶接には、豊富な知識と経験が必要である。そのため溶接工としてデビュー後は、様々なことを覚えなければならぬ。新人溶接工の阿部さんにとって、これまで覚えたことをまとめたノートは、大切な財産だ。「作業前に読み返して注意点やコツを復習しています。ほかのページからより良い方法を発見することもあります」

動の時は、面白そうだと感じて就職しました。でも、ものづくりの仕事ではなかったの……」と阿部さん。「やっぱり、ものを作る仕事に就きたい！」との思いから、転職を決意したという。

「次の就職先を探す時に、高校で経験したガス溶接の実習が楽しかったことを思い出しました。だから、今度は溶接の仕事を探すことにしました」

こうして同社に就職した阿部さんは、すぐに奥が深い溶接の洗礼を受けることに。「TIG溶接」「炭酸ガスアーク溶接」

入社1年目のある日、阿部さんは抵抗スポット溶接を担当した。ピンポイントで溶接する場合には最もポピュラーな技法で、金属板の接合したい部分を加圧しながら大電流を流すことで加工が施される。

「その時に、やり直しができないミスをして、製品をダメにしまいました。もう一度同じ材料を作るところから始める必要があります。」

「YA G レーザー溶接」「抵抗スポット溶接」など、同社で扱う溶接技法の多さに驚き、そのほとんどが高校で習ったことのないことに戸惑った。

「無我夢中で駆け抜けた1年目
コツコツと技術を磨き次につなげる」

「先輩たちの優しい励ましの声で前を向いた阿部さんは、一つ一つの作業に集中し、丁寧な仕事を心掛けた。教えてもらったノウハウをまとめたノートに繰り返し目を通し、溶接のイメージを頭に叩き込んだ。」

「1年目は、がむしやらでした。2年目からは慣れてきてミスも減りました」

社内の溶接技能認定試験に合格し、東北職業能力開発大学校（栗原市）で実施された技術講習会にも参加するなど、阿部さんは、ますます腕に磨きをかけている。尊敬する佐藤技匠から「きれいに仕上がったな」とほめてもらえる瞬間が何よりもうれしく、やりがいにつながっているという。

CASE 02

仕事を図鑑

**願いをカタチに変える
卓越した匠の技を次の時代へ**

溶接工
阿部 直希さん (21歳)
株式会社ネクスト (栗原市)

企業情報

株式会社ワイ・デー・ケー

所在地 / 本社：東京都稲城市押立 1705
 宮城工場：黒川郡大和町テクノヒルズ 55
 TEL 022-346-8088
<https://ydkinc.co.jp/>

代表取締役社長 / 渡邊 洋子

資本金 / 1 億円
 設立 / 1952 年 11 月

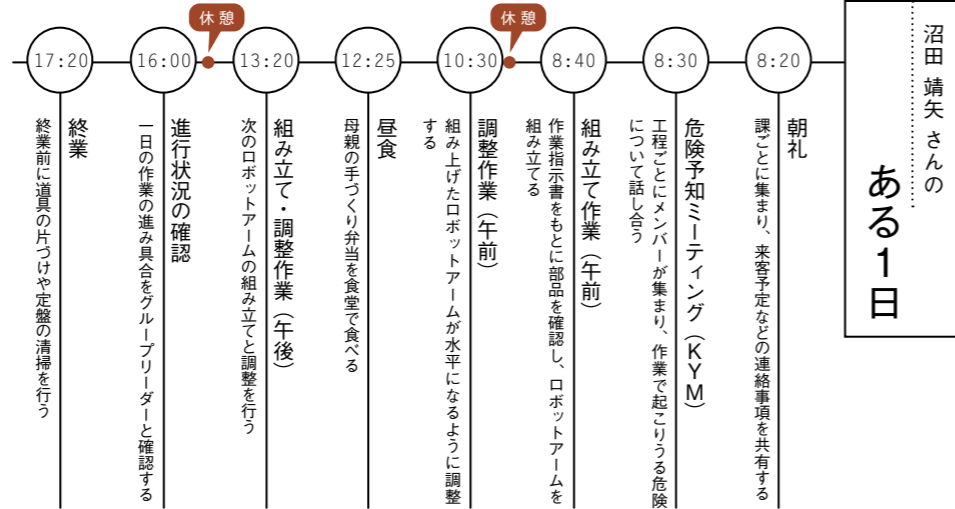
従業員数 / 270 人 (宮城工場：2020 年 3 月現在)

事業内容 / 半導体製造装置・FPD 製造装置・産業用設備の設計
 開発・製造・修理、伝送通信装置・ネットワーク機器・
 IoT 機器の設計開発・製造、ネットワークシステム構築、
 精密機械部品の切削加工

社 是 / お客様第一主義



ロボットアームの動作確認の方法について先輩社員から教わる



休憩時間は、ラウンジでリラックス。木の温もりを感じる空間で会話も弾む



ロボットアームの組み立てを担当するメンバーが集まり、危険予知ミーティングを行う



作業指示書をもとに組み立てに必要なネジを取り出す



先輩からの
アドバイス

私は、「ものを組み立てる仕事に就きたい」という思いをずっと持ち続けて就職先を選びました。今こうして希望通りの仕事に就くことができているのは、やりたいことをきちんと決めていたからだと思っています。そこで、みなさんにも就職先を考える時には、まず「やりたいこと」を明確にしてほしいです。

自分がやりたいと思う仕事でなければ、たとえ大手企業に就職できたとしても、長く続けることができないかも。自分がやりたいと思う仕事なら、最初はつらいと感じても壁を乗り越え、何十年も楽しく続けられるはず。

「やりたいこと」が見つからない人は、担任の先生や部活動の顧問の先生、両親など周囲の大人に相談してみましよう。アドバイスから良い答えが見つかるかもしれません。

仕事
図鑑 CASE
03

技術力とノウハウで
未来を拓くものづくり

製造 沼田 靖矢 さん (19 歳)
 株式会社ワイ・デー・ケー 宮城工場 (大和町)



地元で夢を叶えた喜びを糧に
組み立てに情熱を燃やす

ロボットアームのパーツを組み立て
水平バランスを調整する

沼田 靖矢 さんは、自身が組み立てたロボットアームの数を「ハイトゲージ」と呼ばれる測定器で計測していた。このロボットアームは半導体製造装置に内蔵され、半導体の材料であるシリコンウェーハを平行移動させるもの。基準面からの高さを精密に測定するハイトゲージを使って、アーム全体の水平バランスを確認し、測定結果が規定の範囲内に収まっていない場合は、ネジの締め付け具合を微調整するという。「この後のネジの調整がとても難しくして、

少し動かしただけでもバランスに大きく影響してしまいます」と話す沼田さんは、株式会社ワイ・デー・ケーに入社1年目の新人だ。調整作業は先輩たちよりも時間がかかってしまうが、「焦らずに正確な作業を心掛けようと、自分に言い聞かせています」と落ち着いた様子で語った。

同社の宮城工場は、2018年に稼働したばかりの新しい工場で、主に半導体製造装置に内蔵される様々な機器や部品の製造を手掛けている。沼田さんは、ロボットアームの組み立てから水平バランスの調整までの作業を担当するグループに所属する。「作業ミスや製品の不具合を起こさないように、一つ一つの作業後の確認を徹底しています」と意気込む。



2



3

先輩の姿を見て成長
次は自分が後輩の手下になる

沼田さんは、小学生の頃からプラモデルを作ることが好きで、将来は「ものを組み立てる仕事に就きたい」と思っていた。地元にある黒川高等学校 (大和町) の機械科に進学し、ものづくりについて学んだ。放課後は、ロボット研究部で設計や組み立てに夢中になった。

高校3年生になっても、ものづくりの道に進むことは揺るがなかったが、就職を希望する企業が絞り切れず悩んだという。そんな時、先輩から同社を紹介された。できたばかりの工場、最先端の事業分野が魅力的だった。「夏に工場を見学した時、

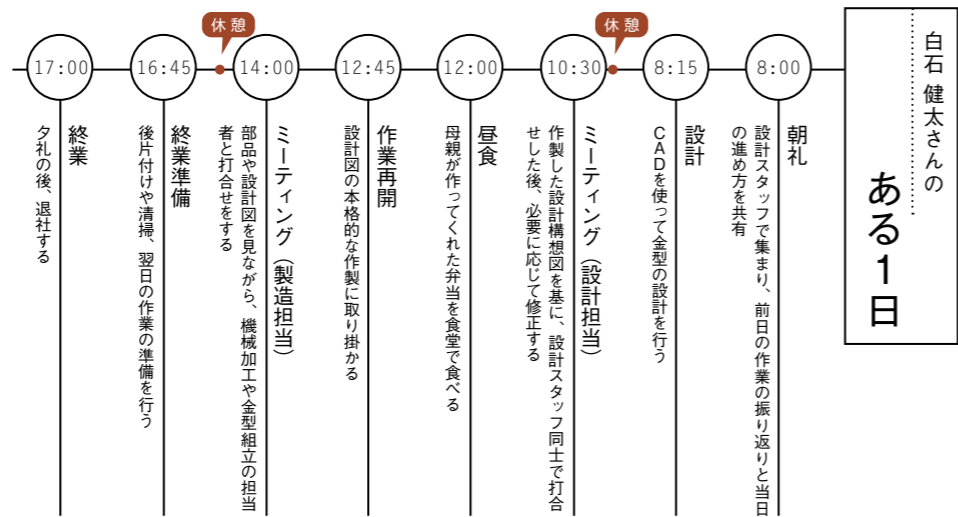
1 ハイトゲージを使って、組み立てたロボットアームの平行バランスを確認する沼田 靖矢 さん

2 「小集団改善活動」と呼ばれるミーティングに参加する。製品の品質や業務内容に関する改善点などについて小グループで話し合う

3 2018年9月に稼働を開始した宮城工場。ハイレベルの清浄度を誇る巨大なクリーンルームや、国内有数の大型精密洗浄装置など最先端の設備が導入されている



機械加工の担当者から意見を聞いて、金型設計のヒントを得る



金型の加工を依頼する機械加工のメンバーとは、常に情報を共有している



作製した図面を設計部門のメンバーで検討し、改善点があれば修正する



CADを使って金型の設計図を作製する



2



3

CASE 04
仕事図鑑

新しい価値を創造する 多才な技能者集団

金型設計
白石健太さん(21歳)
株式会社登米精巧 本吉工場(気仙沼市)

「ものづくりの母」とも呼ばれる金型その設計を担当する若手エンジニア

株式会社登米精巧の本吉工場(気仙沼市)で、白石健太さんは「金型」の仕上げりを念入りにチェックしていた。金型は、大量生産する工業製品を早く・安く・均一な品質で作るためには不可欠なもの。現在、白石さんは、OA機器部品を作る金型の設計を担当する。完成した金型はプレス加工機にセットされ、金属の板から精密部品を作り出すという。

「金型設計は、部品づくりの最初の工程となる重要な仕事です。加工部門の人たち



1

ポジティブな思考を心掛け、金型設計に全身全霊を注ぐ

企業情報

株式会社登米精巧

所在地 本社：登米市迫町新田字日向 97-1
本吉工場：気仙沼市本吉町小金山 38-3
TEL 0226-43-2228
<http://www.tomeseicoh.co.jp/>

代表取締役 後藤 康治
資本金 5,800万円
設立 1989年1月
従業員数 98人(2019年12月現在)

事業内容 機械・省力機器の設計・製作・組立・販売、精密機械部品製造販売、精密金型・板金・精密プレス部品加工・ユニット組立・販売、機械・装置・その他のメンテナンス・オーバーホール、カチオン電着塗装

経営理念 小さくても良い会社(スモールリッチカンパニー)
提案型生産会社を目指す。また地域密着型企業である事を会社を通じて全員が豊かな家庭を築く



められる加工精度のレベルの違いに驚いたという。「加工がうまくいかず、悩むこともありましたが、仕事を続けていくうちにコツをつかんでいきました」

最初からうまくいかないのは当たり前、できることを少しずつ増やしていこう。白石さんの前向きな考え方は、金型設計部門に移ってからも生かされた。「初めて設計を担当した金型が完成した時は、とてもうれしかったです」と白石さん。その金型から初めて部品が生み出された瞬間に立ち会った時には、「これまでの努力と苦労が報われました」と感慨深げに話した。

入社3年目を迎え、仕事や職場の雰囲気にも慣れてきた。「これからは様々な製品づくりに関わりたい。そのために必要な資格の取得やスキルアップに取り組みたいです」と白石さんは、さらなる成長を誓った。



未来のACEへ
先輩からの
アドバイス

私は、高校生の時から積極的に様々な資格取得に挑戦し、機械保全技能士やフォークリフトの免許、アーク溶接の資格を持つことができました。これによって、資格が手に入るだけではなく、目標達成に向かってチャレンジする気持ちや、努力や忍耐力を身に付けることができましたと感じています。

みなさんも、仕事に必要な資格や知識を高校生のうちから積極的に身に付け、武器にしてほしいと思っています。今は「必要ないかな」と感じていることでも、いつか高校生の時に学んだことが生きる時が来ると思います。

自分の将来に必要なことを見つけるためにも、気になる仕事や会社について、とことんリサーチしておくことが大切です。自分で調べてみたいり、先生や親に聞いてみたりするのもいいですね。

機械加工の経験を金型設計に生かす
成功を重ねながら着実に成長

登米総合産業高校(登米市)で機械について学んだ白石さんは、地元でものづくりの仕事をしたかったと思い、卒業後に同社に入社した。「2年生の夏、登米精巧で3日間のインターンシップを経験したことがきっかけです。大型の加工機や精密な製品を見て驚き、高校で学んだことをこの会社で生かしてみたいと思いました」

入社1年目は、機械加工部門に配属され、汎用旋盤を操った。高校の実習でも扱ったことがある馴染みのある作業だったが、求

が作業しやすい金型を設計できるように努力しています」と話す白石さん。思い通りの仕上がりには満足な様子だ。

同社は、金型の設計・製作をはじめ、機械装置や産業用ロボットの設計・製作、精密機械部品の製造などを手掛ける。設計から製造まで請け負う一貫生産体制と、高い技術を持つ人材を強みに、自動車や半導体装置、医療機器、航空機など、幅広い産業分野でものづくりを展開する。

「一貫生産ができる会社なので、いろいろな分野で活躍することができます」。そう話す白石さんも、2年前に機械加工部門から金型設計部門へ異動したという。まだ、新しく覚えることが多く、「経験豊富な先輩たちからアドバイスをもらって、学んでいます」と話す。